

大阪工業大学 2022年度 教職課程自己点検・評価 (チェックリスト)

目 次

基準 1. 教育理念・学習目標 2	基準 4. 教員・職員組織 9
基準項目 1-1. 目標及び当該目標を達成するための計画	基準項目 4-1. 教員および職員の配置の状況
基準項目 1-2. 目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	基準項目 4-2. 教員の業績等
基準項目 1-3. 目標及び当該目標を達成するための計画の見直し	基準項目 4-3. FD・SD の実施状況
基準 2. 授業科目・教育課程の編成実施 4	基準項目 4-4. 授業アンケートの実施状況
基準項目 2-1. 教育課程の体系性	基準 5. 情報の公表 11
基準項目 2-2. 教育課程の充実・見直しの状況	基準項目 5-1. 自己点検・評価に関する情報公表の状況
基準項目 2-3. ICT の活用指導力など各科目横断する重要な事項についての体系性	基準項目 5-2. 法令に定められた情報公表の状況
基準項目 2-4. 個々の授業科目の到達目標の設定状況	基準項目 5-3. 学修成果に関する情報公表の状況
基準項目 2-5. シラバスの作成状況	基準 6. 教職指導 (学生の受入、学生支援) 14
基準項目 2-6. アクティブ・ラーニングや ICT の活用など新たな手法の導入状況	基準項目 6-1. 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組状況
基準項目 2-7. 教職実践演習及び教育実習等の実施状況	基準項目 6-2. 学生に対する履修指導の実施状況
基準 3. 学習成果の把握・可視化 7	基準項目 6-3. 学生に対する進路指導の実施状況
基準項目 3-1. 教員養成の目標の達成状況 (学修成果) を明らかにするための情報の設定及び達成状況	基準項目 6-4. 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況
基準項目 3-2. 成績評価の状況	基準 7. 関係機関との連携 16
基準項目 3-3. 成績評価に関する共通理解の構築	基準項目 7-1. 教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況
基準項目 3-4. キャップ制の設定状況	基準項目 7-2. 教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況
	基準項目 7-3. 学外の多様な人事の活用状況

○大阪工業大学の自己判定基準

自己判定	判定基準
S	評価基準を十分に満たしており、使命・目的を達成する取組みが特筆すべき水準にある。
A	評価基準を満たしており、使命・目的を達成する取組みが適切である。
B	評価基準を概ね満たしているが、使命・目的の達成に向けて一部改善が必要である。
C	評価基準を満たしておらず、使命・目的の達成に向けて改善が必要である。

注) エビデンス資料の添付はなし

<参考：文科省資料の表記等>

「教科専門科目」：教科に関する専門的事項、領域に関する専門的事項

「教職専門科目」：各教科の指導法、保育内容の指導法、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目

基準 1. 教育理念・学習目標

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度 自己判定 (S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
1-1 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画	<p>・教職課程教育の目的・目標を、建学の精神および各学科における専門教育の現状等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。</p> <p><参考:教員養成に対する理念・構想…抜粋></p> <p>(ア) 人権を尊重し、人の悩みや不安をともし、人間の成長に主体的にかかわることに喜びを見いだす情熱や使命感に裏付けられた教育者たるにふさわしい豊かな人間力を育成すること。</p> <p>(イ) 各学部・学科における専門教育と教職に関する専門教育を有機的に関連づけながら、工科系総合大学としての特色を活かした専門性および教員として様々な課題をもつ子どもと向き合い、具体的かつ効果的な指導や援助ができる実践的指導力を育成すること。</p> <p>(ウ) 自己を教育者として、また人間として、生涯にわたって学び高めていく自己教育力を育成すること。</p>	A	<p>本学が開設する教職課程における最大の特色は、開放制に求めることができる。したがって、各専門学科の卒業要件を満たしたうえで教職課程での要件も満たした者だけが教育職員免許状の取得が可能である。この中で、各分野の専門性を身に付ける各学科での学士課程教育では、ディプロマサブリメントシステムを活用する本学独自の先進的な卒業時質保証を実現している。この点は、教職課程にとっても目的・目標達成の重要な基盤となっている。</p> <p>以上の観点からすると、卒業は免許状取得者にとって、ディプロマポリシーから各学科の専門性を正しく身につけ、それを基に技術者等として活躍できる資質を身に付けていると判断できる証であり、教員養成に対する理念・構想に挙げられているイ号前半の達成を担保している。一方で、免許取得の要件を満たすことはア号およびイ号後半の達成の証となっている。さらに両者が融合することでウ号の達成に向けた意識の醸成が進んでいると認めることができる。</p> <p>教職課程全般の「教員養成に対する理念・構想」を定めてそれを公表しているが、学部学科ごとの「教員養成に対する理念・構想」については公表するに至っていないため、次年度以降の検討課題である。</p>	<p>■ 教職課程の設置趣旨および教員養成に対する理念・構想 【資料 01】 教職課程／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/education/index.html</p> <p>■ 卒業時の質保証を担う独自の教育システム 【資料 02】 大学紹介／大阪工業大学 HP http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/oit_kyoiku_system.html</p>

<p>1-2 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス</p>	<p>・教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。</p>	<p>A</p>	<p>本学の教職課程カリキュラムは、今日的な課題を踏まえて行われた教育職員免許法施行規則の改正やコアカリキュラムの導入・改訂に対応し、それらを適切に反映した内容になっている。その際には、各授業科目の内容に学力の三要素やダイバーシティーへの意識向上を組み込んでいる。</p> <p>また、本学の教職課程においては、今年度より教職課程委員会を運営・点検評価の中核的組織として明確に位置づけることで、自己点検・評価を含め当該委員会で決定するプロセスに明確化した。また、それにより教職課程を設置する各学科等所属教員の取組意識を高めることに繋げている。</p>	<p>■ 各学科の取得可能な免許教科および教育課程(2022年度入学生) 【資料 03】教職課程履修の手引き pp89-122 PDF</p> <p>■ 別表第3 教育職員免許状の種類および免許教科 【資料 04】学則／大学紹介／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap06</p> <p>■ 教職課程の教育目標とカリキュラムの編成方針 【資料 05】教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p> <p>■ 教育方法論 【資料 05】教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p> <p>■ 第2回教職課程委員会議事録(2022年2月22日付) 【資料 06】PDF</p> <p>■ 教育課程の改正に係る教職課程変更届の作成について(2022年1月14日付) 【資料 07】PDF</p>
<p>1-3 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直し</p>	<p>・教職課程委員会、教職教室、教務課が連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、させようとしている。</p>	<p>A</p>	<p>前年度に大阪工業大学教職課程委員会規定を改め、今年度より教職課程委員会を自己点検・評価を行う中核的組織として位置づけを明確にした。当該委員会を軸に、工学部・ロボティクス&デザイン工学部・情報科学部各学科の専任教員、および工学部一般教育科長・総合人間学系教室主任、教職主任・教職教室教員および教務課が組織的に連携する体制となり、自己点検・評価も円滑に進捗している。</p>	<p>■ 教職課程委員会規程 【資料 08】PDF</p> <p>■ 大学全体における教職指導体制 【資料 01】教職課程／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/education/index.html</p>

【関連する参照法令等】

- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学校教育法施行令
- ・学校教育法施行規則
- ・学習指導要領
- ・文部科学省 告示・通達 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/index.htm
- ・大阪工業大学学則
- ・組織規定
- ・事務分掌規定
- ・大阪工業大学教職課程委員会規定
- ・大阪工業大学工学部履修規定
- ・大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部履修規定
- ・大阪工業大学情報科学部履修規定

基準 2. 授業科目・教育課程の編成実施

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度自己判定(S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
2-1 教育課程の体系性	・法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されている。	A	教育職員免許法に基づき、法令上の科目区分等それぞれに必要な科目を開講しており、教職課程開講科目間の役割分担は適切である。また、本学教職課程は、免許教科や本学の教員養成に対する理念を踏まえている。そのほか、教職課程以外の教科に関連する科目も開設し、卒業要件上一定数修得が必要となるなど、明示しているディプロマポリシーを厳格に運用していることから、学士課程教育との連携は適切であり相当性を確保できている。	■ 各学科の取得可能な免許教科および教育課程(2022年度入学生) 【資料 03】教職課程履修の手引き pp89-122 PDF
2-2 教育課程の充実・見直しの状況	・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われている。	A	授業アンケートについては、教職科目を含む全科目で毎年実施し、授業アンケート結果や成績評価の状況等を通じて、個々の授業単位で見直し等充実を図るとともに、教職専門科目は教職教室および教務部で、教科専門科目である専門学科開講科目は、各学部の教務委員会で具体的な充実が検討され、教職課程全体としては、教職課程委員会で見直しを行っている。	■ 第2回教職課程委員会議事録(開催 2022年2月22日付) 【資料 06】 PDF ■ 教育課程の改正に係る教職課程変更届の作成について(2022年1月14日付) 【資料 07】 PDF ■ 各学部教務委員会議事録(2021年度・2022年度) 【資料 09】 PDF ■ 授業アンケート結果 【資料 10】 PDF
2-3 ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	・今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。	A	教職課程履修者は、それぞれの学士課程教育によって技術者にとって必要不可欠な汎用的および専門的な ICT 技術を身に付けている。その上で教職課程においては、このような素養の積みあげを基盤にして、ICT 技術を積極的に教育現場で活用する意識付けをするとともに、ICT 技術活用の意義やその活用の方法論に関する理解について深めている。具体的には、各教科教育法のなかで各教科の指導法科目、さらに教科専門科目においては、情報通信技術の活用を重視し、教科の指導法や教職実践演習、教育実習事前事後指導などで文部科学省の「教員の ICT (情報通信技術) 活用指導力の向上」を推進する方針に基づき ICT 機器を用いた指導力の養成に努めている。	■ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(OIT MDASH) 【資料 11】 数理・データサイエンス・AI教育プログラム/在学生の方へ/大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/students/oitmdash.html

<p>2-4 個々の授業科目の到達目標の設定状況</p>	<p>・法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られている</p>	<p>S</p>	<p>本学では、項目1-1で述べているように、教職課程も含む全授業科目で履修者が最低限達成すべき到達目標であるミニマム・リクワイアメント(MR)を設定している。このMRはディプロマポリシーと連動するものであり、MRに基づく厳格な成績評価により卒業時の質保証を実現している。さらに、教職専門科目におけるMR設定に関しては、教職課程コアカリキュラムに基づいた到達目標となっており、同様に教育職員免許状取得のための要件を構成するものとして適切である。またすべての教職専門科目では学習指導要領を参考書とし、その内容に準拠して授業を進めている。</p>	<p>■ 教職課程科目シラバス 【資料05】教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p> <p>■ 卒業時の質保証を担う独自の教育システム 【資料02】 大学紹介／大阪工業大学HP http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/oit_kyoiku_system.html</p> <p>■ 第2回教職課程委員会議事録(開催2022年2月22日付) 【資料06】 PDF</p>
<p>2-5 シラバスの作成状況</p>	<p>・教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示している。</p>	<p>A</p>	<p>教職課程の教育目標とカリキュラムの編成方針に基づき、各科目における学修内容や評価方法をシラバスに明示している。</p>	<p>■ 教職課程の教育目標とカリキュラムの編成方針 【資料05】 教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p> <p>■ 教育方法論 【資料05】 教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p>
<p>2-6 アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況</p>	<p>・授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われている。 →例示のように突出した科目はあるが、一般論としてはそこまでの水準に到達しているとは言えない</p>	<p>A</p>	<p>教員のICT(情報通信技術)活用の状況については、基準2-3のとおり。教職専門科目では、特に「数学科教育法」等の教科指導法に関する科目を高等学校や中学校の現場で実践・研究を重ねてきた経験を持つ実務家教員が担当し、積極的にアクティブ・ラーニングおよびICTを取り入れた授業を行っている。</p>	<p>■ 数学科教育法 a 【資料05】 教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p>

<p>2-7 教職実践演習及び教育実習等の実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。 ・個々の学生の学修状況に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>教育実習の履修要件は「教職課程履修の手引き」に明示している。教育実習は、教育実習校での教育実習と本学における「事前・事後指導」で構成され「事前指導」は、4月から5月に7回にわたって実施し、教育実習の意義と心得、教育実習の内容、教科指導や生徒指導に関わる基礎的事項などの教育実習を行うために必要な事前学習を行う。また、5月下旬から6月に2または3週間かけて各自教育実習校において「教育実習」を行い、学校の教育活動全般について実地学習する。さらに、7月に事後指導を実施し、教育実習の反省と今後の課題整理を行う。</p> <p>教職実践演習（中・高）は、教職課程の総まとめとして、4年次後期に開講される科目である。各受講者の教職科目の学修状況をふまえ、修得度が不十分な領域に関するテーマを選択し、テーマに該当する研究課題を自由に設定する。そして、文献調査、学校現場の見学・調査、当該分野を専門とする教員による指導助言、受講者相互のグループ討論等を通して、研究課題に関連する情報を収集し、それらの分析検討や指導案の作成を行う。さらに、研究成果をまとめ、学内の教職員や学生を招いて発表会を開催し、質疑応答と相互評価を行うことで実践的指導力を育成している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育実習について 【資料 03】教職課程履修の手引き p141 PDF ■ 教育実習および教職実践演習 【資料 05】 教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/ ■ 教職実践演習最終成果報告レジメ(ラーニングポートフォリオ) 【資料 12】 PDF ■ 教職課程履修カルテ(用紙) 【資料 13】 PDF
-----------------------------------	---	--------------------------------------	---	--

【関連する参照法令等】

基準 3. 学習成果の把握・可視化

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度自己判定(S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
3-1 教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を明らかにするための情報の設定及び達成状況	・「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。	A	本学では2010年度入学生より「履修カルテ」の作成と運用を開始した。履修学生の在学中は、教職教室の教員が年次進行に伴って随時履修カルテを点検しながら、当該履修者の学修状況および大学内外での活動状況などを把握し、ラーニングポートフォリオとして活用をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育実習および教職実践演習 【資料05】 教職課程/シラバス/大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/ ■ 教職課程履修カルテ(用紙) 【資料13】 PDF
3-2 成績評価の状況	・各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか、公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっている。	A	学長方針に掲げる「教育の質保証にかかる取組の推進」の一環として、全授業科目のシラバスでは「ミニマム・リクワイアメント」を明示し、それに基づいた「到達目標」「評価方法」「成績評価基準」を設定公開すると共にそれらに沿った厳密な成績評価を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2023年度大阪工業大学学長方針 【資料14】 PDF ■ 卒業時の質保証を担う独自の教育システム 【資料02】大学紹介/大阪工業大学HP http://www.oit.ac.jp/japanese/oit_kyoiku_system.html ■ 教育方法論 【資料05】 教職課程/シラバス/大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/
3-3 成績評価に関する共通理解の構築	・同一の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができている。	A	<p>オムニバス形式で実施している科目は、「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」「教育方法論」「生徒指導と進路指導」「生徒指導論」「福祉教育概論」である。これらの科目に関しては、複数の担当者が開講前に協議してシラバスならびに評価方法ならびに評価基準を作成し、それに基づいて授業の運営・展開を進めるため、担当者による成績評価のゆらぎは生じない。</p> <p>また、共同担当の2科目「教育実習」・「教職実践演習(中・高)」においても、事前に評価方法ならびに評価基準の策定を行った上で担当者全員の協議によって成績評価するため、成績評価の大きなバラツキを防ぐことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別活動・総合的な学習の時間の指導法および教育実習、教職実践演習 【資料05】 教職課程/シラバス/大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/

<p>3-4 キャップ制の設定状況</p>	<p>・1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能している</p>	<p>A</p>	<p>教職課程の履修については、キャップ制の対象とはなっていないが、「教職課程履修の手引」において各科目の「最も望ましい履修年次」を指定することにより、計画的な履修を促すことで過度の履修に陥らないよう配慮している。</p> <p>また、すべての科目のシラバスには各回で必要となる予復習の時間数(目安)を明示し、法令上の授業外学修時間を満たすよう指導に努めている。特に教科教育法にかかる科目では、模擬授業実施などに対する事前準備や振り返り等が必要になっており、法令による必要学修時間数への認識を履修学生に対して促している。</p>	<p>■ 最も望ましい履修年次 【資料 03】教職課程履修の手引き pp128-134 PDF</p> <p>■ 取得できる教員免許状・履修方法 【資料 01】 教職課程／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/education/index.html</p> <p>■ 教職課程免許状取得までの流れ 【資料 11】 教職課程／履修・授業／在学生の方へ／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/students/education.html</p> <p>■ 各教科教育法 【資料 05】 教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p>
---------------------------	-------------------------------------	----------	--	---

【関連する参照法令等】

基準 4. 教員・職員組織

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度 自己判定 (S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
4-1 教員および職員の配置の状況	・教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。	S	<p>本学では教職課程認定基準を踏まえ、「教職専門科目」「教科専門科目」に必要な教員数を配置している。また、「教職専門科目」では、高等学校あるいは中学校での豊富な実務経験に基づき特筆すべき教育研究業績を挙げてきた実務家教員と、各専門分野の研究業績を有すると同時に学校現場の実情を知るとともに、自らも教員免許状を取得している研究者教員とがバランスよく在籍している。さらに、全教員が集まる会議(教職教室会議等)で教職課程運営に関して定常的に議論していることに加え、実務家教員と研究者教員とが分担する科目も開講しており、異なった視点の融合による教職課程全体ならびに授業の運営を推し進めている。</p> <p>さらに、事務職員との協働体制については、教職教室会議に教務課の教職担当職員が参画し、教職課程委員会では教務課長が委員として参画している。</p> <p>また、各キャンパスの教務担当ならびに就職担当の事務職員と教職教室教員とが一堂に会し「教職事務懇談会」を開催している。</p>	<p>■ 教員組織 【資料 15】 情報の公表／大学紹介／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/soshiki.html</p> <p>■ 研究者総覧 【資料 16】大阪工業大学 HP http://research-db.oit.ac.jp/search?m=home&l=ja</p> <p>■ 第 6 回教職教室会議議事録(2022 年 12 月 9 日) 【資料 17】 PDF</p> <p>■ 教職事務懇談会記録 (2022 年 2 月 28 日) 【資料 18】 PDF</p> <p>■ 教職課程委員会規程 【資料 08】 PDF</p> <p>■ 大学全体における教職指導体制 【資料 01】 教職課程／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/education/index.html</p>

<p>4-2 教員の業績等</p>	<p>・担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の 学校現場等での実務経験の状況。</p>	<p>A</p>	<p>教職専門科目や一部の学科の教科に関する専門的事項においては、今年度（2022年度）の中学校技術免許にかかる課程認定申請において教育研究業績の点検を行い、十分な実績・経験を積んでいることを確認している。なお、教科に関する専門的事項については、当該科目を設定している学部において業績は確認している。</p>	<p>■ 2022年度FD・SD活動などの目的・方針と活動計画について(本学) 【資料19】 PDF</p> <p>■ 教員組織 【資料15】 情報の公表／大学紹介／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/soshiki.html</p> <p>■ 研究者総覧 【資料16】 大阪工業大学 HP http://research-db.oit.ac.jp/search?m=home&l=ja</p>
<p>4-3 FD・SDの実施状況</p>	<p>・いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施されているか、適切な内容が実施できている。また、実際に参加が確保できている。</p>	<p>A</p>	<p>本学では年度ごとのFD・SD計画に基づき、全教員を対象としたFD・SDフォーラムを開催し、教職課程にも通じるテーマを取り上げている。教職専門科目の担当者向けのFD・SDに関しては、主に学外の教職課程に関する団体のフォーラム・研修会に参加し、加盟する他大学と連携して、教職課程における課題の共有および資質・能力の向上に努めている。</p> <p><今後の課題> 学習指導要領の改訂等、重要なトピックに合わせて、専門学科の教員も参画する教職課程委員会にて教職課程に特化した活動の実施を検討したい。</p>	<p>■ 加盟大学一覧 【資料20】 阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会 https://www.hanshinkyokyo.jp/kaiinko/kaiinko.html</p> <p>■ 全国私立大学教職課程協会 【資料21】 http://www.zenshikyoo.org/</p> <p>■ 大学教務実践研究会 【資料22】 https://kyoumujissenn.com/</p>
<p>4-4 授業評価アンケートの実施状況</p>	<p>・個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えている</p>	<p>A</p>	<p>本学では、教職課程も含む全授業科目で「学生による授業アンケート」を実施している。当該授業アンケートはC-Learningシステムを用いており、即座に集計ができ、授業担当者は、得られたアンケート結果について速やかにフィードバックを行い、学生からの意見に真摯に対応している。なお、授業アンケート結果はFD委員会に報告し全学的な問題点あるいは傾向の把握に努めて、さらに改善への努力に繋げている。</p>	<p>■ 第1回FD委員会議事録(2022年3月3日) 【資料23】 PDF</p> <p>■ 授業アンケート結果 【資料10】 PDF</p>

【関連する参照法令等】

教職課程認定基準 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/12/08/1399160_07.PDF

基準 5. 情報の公表

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度自己判定(S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
5-1 自己点検・評価に関する情報公表の状況	・根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の状況を公表することができる。	A	<p>大学全体の自己点検・評価活動は、1991年度より学長を委員長とする「大阪工業大学自己評価・IR委員会」が実施し公表している。</p> <p>教職課程の自己点検・評価活動については、基準項目1-2および1-3に記載している教職課程委員会が主体的に取りまとめる体制となっている。すなわち、教職課程に関わる教職員個々の活動を統括する体制を整え今年度から組織的に取組その結果を公表することになっている。</p>	<p>■ 認証評価、自己点検・評価 【資料 24】 大学紹介／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/ninsyouhyouka.html</p> <p>■ 教職課程における自己点検・評価(チェックリスト) 【資料 25】 PDF</p>

<p>5-2 教育職員免許法施行規則に定められた情報公表の状況</p>	<p>・教職課程に関する情報公表を行っている。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>本学の教育職員免許法施行規則第22条の6に挙がる公表すべき情報について、以下のように大学 HP ならびに教職課程 HP に掲載し公表している。</p> <p>1 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。 (1) 教員養成に対する理念・構想 (2) 教職課程の設置趣旨 (3) 免許状取得までの流れ 教職課程 HP (4) 免許状取得までのアウトライン (5) 最も望ましい履修年次</p> <p>2 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること。 (1) 大学全体における教職指導体制 (2) 教職教室教員 教職課程 HP (3) 教職専門科目の専任・非常勤講師（兼担）</p> <p>3 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。 (1) 教職課程の教育目標とカリキュラム編成方針 (2) WEB シラバス 教職課程 HP (3) 免許状取得までのアウトライン (4) 教職課程の教育目標とカリキュラム編成方針</p> <p>4 卒業者（専門職大学の前期課程の修了者を含む。次号において同じ。）の教員免許状の取得の状況に関すること。 教職課程 HP (1) 教員免許状取得状況</p> <p>5 卒業者の教員への就職の状況に関すること。 教職課程 HP (1) 教員採用状況</p> <p>6 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。 教職課程 HP (1) 大学全体における教職指導体制</p> <p>今後の課題 教職課程・教職教室に関する HP へのアクセス改善</p>	<p>■ 最も望ましい履修年次 【資料 03】教職課程履修の手引き pp128-134 PDF</p> <p>■ 取得できる教員免許状・履修方法 【資料 01】教職課程／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/education/index.html</p> <p>■ 教職課程免許状取得までの流れ 【資料 11】 教職課程／履修・授業／在学生の方へ／大阪工業大 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/students/education.html</p> <p>■ 教職課程の教育目標とカリキュラムの編成方針 【資料 05】教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/</p> <p>■ 大学全体における教職指導体制 【資料 01】 教職課程／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/education/index.html</p> <p>■ 教員組織 【資料 15】 情報の公表／大学紹介／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/soshiki.html</p>
---	-----------------------------	--	---

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度 自己判定 (S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
5-3 学修成果に関する情報公表の 状況	・大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できている。	A	<p>教職課程での学修成果については、「教職実践演習における口頭試問」ならびに「教育実習先における評価」、「教職実践演習の評価」、「教員免許状取得者数」、「教員採用状況」を通じて把握を行っている。</p> <p>また、学生自身が学修成果を把握するため、履修カルテの作成を通して、教職課程の履修を始めてから「教職実践演習」を履修するまで、自己のふり返りや今後の課題を把握するように指導している。</p>	<p>■ 教職実践演習口頭試問評価結果 【資料 26】 PDF</p> <p>■ 教員免許状取得状況および教員採用状況 【資料 01】教職課程／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/education/index.html</p>

基準 6. 教職指導 (学生の受入、学生支援)

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度自己判定(S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
6-1 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を踏まえて、ガイダンス等を実施している。 ・「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。 	A	<p>大学入学直後に教員免許状取得に至るアウトラインを提示し、さらに履修者の学年進行に沿ってガイダンスおよび個別指導によって修学指導を継続して実施している。さらにこれらの機会には、教職課程を履修する意義、および教職の意義について繰り返し伝え、意識の涵養を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最も望ましい履修年次 【資料03】教職課程履修の手引き pp128-134 PDF ■ 教職課程免許状取得までの流れ 【資料11】 教職課程/履修・授業/在学生の方へ/大阪工業大 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/students/education.html
6-2 学生に対する履修指導の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか、「履修カルテ」を適切に活用できている。 	A	<p>本学では以下に記載の通り「履修カルテ」の活用および保管を行っている。</p> <p>(1) 「教職実践演習(中・高)」における利用 4年次後期に開講される「教職実践演習(中・高)」の履修者および担当教員が、履修カルテを参照してそれまでの履修状況を把握し、個別の研究課題の設定や口頭試問の際の参考資料として利用している。</p> <p>(2) 教職課程履修者による学習過程の振り返り 教職課程履修者自身が、履修カルテの作成を通して、教職課程の履修を始めてから「教職実践演習」を履修するまでの間に、教職課程の授業で何を学んだかを振り返り、今後どのような学習が必要かを考える手がかりにすることができる。</p> <p>(3) 教職指導への活用 教職課程担当教員が、履修カルテを通して、教職課程履修者の学修状況や大学内外での活動状況などを把握し、学生の教職指導全般に用いる。</p> <p>(4) 履修カルテの保管・管理 「履修カルテ」は、教職課程委員会、教務課および教職教室が中心となり、責任をもって管理している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 履修カルテについて 【資料03】教職課程履修の手引き p139 PDF ■ 履修カルテの実施および保管・管理に関する申し合わせ 【資料27】 PDF ■ 教職教室通信第34号(2022年3月23日付) 【資料28】 PDF ■ 教員採用試験参考書購入リスト 【資料29】 PDF ■ 教職課程履修カルテ(用紙) 【資料13】 PDF

【関連する参照法令等】

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度自己判定(S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
6-3 学生に対する進路指導の実施状況	<p>・学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。</p> <p>・教職に就くための各種情報を適切に提供している。</p> <p>・教員就職率を高める工夫をしている。</p> <p>※本項目では一般学生に対する体制と教職を目指す学生に対する体制との対比を前面に出し、同等以上の体制である点を謳うことに主眼を置いている。</p>	A	<p>本学では以下に示す体制で進路指導を実施している。</p> <p>◆ 一般的な学生 指導教員および学科内の就職担当教員が、就職課内の各学科担当職員と連携し、就職活動の事前準備(意識づけ・面接練習他)を行い、求人情報等は就職課に集約している。</p> <p>◆ 教職志望学生 教職教室の教員(非常勤教員も含む)が、就職課内の担当職員と連携し、教員採用試験に関する事前準備(推薦書の作成・採用試験対策・志望書等の添削指導・面接対策・模擬授業対策等)を行い、採用試験終了後は、学生の進路決定状況をアンケートや面談を通じて把握すると共に、進路未決定の学生に対し講師等の求人情報を提供するなど、教職志望学生に対する三位一体の支援体制を整えている。</p> <p>上記のような指導では、教職課程履修の手引や教職教室から発行する「教職教室通信」を用意し、それらによって教員採用試験体験記などの教員採用試験に関する各種の情報を提供している。さらに、大宮キャンパス内の教職セミナー室および枚方キャンパス内の教職研究室(事務室)に教員採用試験受験対策参考書を配架して学生に貸し出しを行っている。</p>	<p>■ 教員採用について 【資料03】 教職課程履修の手引き pp142-145 PDF</p> <p>■ 教員採用試験受験状況に関するアンケート 【資料30】 PDF</p> <p>■ 教職実践演習履修者進路先一覧 【資料31】 PDF</p> <p>■ 教職教室通信第34号(2022年3月23日付) 【資料28】 PDF</p> <p>■ 教員採用試験参考書購入リスト 【資料29】 PDF</p>
6-4 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	<p>・ICT(情報通信技術)環境(オンライン授業含む)、教室設備、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されている。</p>	A	<p>教職科目あるいは教職課程に関わる授業科目で使用する一般教室では、有線・無線LAN、プロジェクターや教材提示装置、カメラ等オンライン授業用機器が使用可能であり、ICTを活用した模擬授業も実施できるような授業環境が整っている。また、アクティブ・ラーニングを実践する場として、全キャンパスでラーニング・commonsを設置している。</p> <p>その他、教職科目あるいは教職課程に関わる授業科目の関連図書として、図書館(大宮本館・梅田分館・枚方分館)に各教科の教科書および学習指導要領を配架している</p>	<p>■ ラーニング・commons 【資料32】 図書館/大阪工業大学 HP http://www.oit.ac.jp/japanese/toshokan/tosho/learcom/index.html</p> <p>■ 図書館 OPAC 【資料33】 https://ufinity.lib.oit.ac.jp/?page_id=15</p>

【関連する参照法令等】

基準 7. 関係機関との連携

基準項目	評価の視点・自己判定の留意点	2022年度 自己判定 (S・A・B・C)	自己判定の理由	エビデンス資料
7-1 教育委員会や各学校法人との 連携・交流等の状況	・大学と教育委員会や学校等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。	A	<p>本学では、次に示す教育委員会と包括連携協定を締結し、教育実習の受入れ調整および教員免許状の一括申請等で密接に連携し、さらにその結果以下のような連携が実現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府教育委員会 ・堺市教育委員会 ・守口市教育委員会 <p>○ 大阪府教委および大阪市教委に関しては、教員採用担当部署による採用試験に関するガイダンスを毎年実施</p> <p>○ 府立工科高校等での教員の日常業務体験(インターンシップに相当)を実施</p> <p>○ 科学の甲子園大阪府大会における出題採点業務への参画</p> <p>また、本学の近隣中学校である大阪市立大宮中学校と「放課後学習会ボランティア」事業、神戸市教育委員会とは、「神戸市学生スクールサポーター制度」事業で本学の学生が毎年度参加し、相互の協力関係を築いている。</p> <p>その他、「介護等の体験」では、大阪府立思齊支援学校の協力を得て同校で実施している。</p>	<p>■ 教育委員会・高等学校との連携 【資料 34】 理工系人材育成について／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/development/science.html</p> <p>■ 放課後学習会ボランティア募集依頼文 (大阪市立大宮中学校) 【資料 35】 PDF</p> <p>■ 学生スクールサポーター活動状況報告書 (神戸市教育委員会事務局) 【資料 36】 PDF</p> <p>■ 令和4年度介護等の体験受け入れ通知 (大阪府教育庁) 【資料 37】 PDF</p>

<p>7-2 教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況</p>	<p>・教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか、学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できている。</p>	<p>S</p>	<p>教育実習校全校を対象に、教職教室教員が実習期間中に訪問指導を実施し、実習生の取り組み内容を把握する他、課題点および今後の改善点を共有し、連携・協力を図っている*。また、教育実習とは別に、工業高校の教員養成を目的に大阪府下の工業高校を中心とした「工業高校インターンシップ」を実施している。</p> <p>また、前項にも掲げた学習会ボランティアやスクールサポーター等の募集情報を学内に発信し、場合によっては日程調整や選考を行っている。</p> <p>*ただし実習先の都合により訪問できない場合もわずかながら存在する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育実習校訪問指導担当者一覧 【資料 38】 PDF ■ 工業高校インターンシップについて 【資料 03】 教職課程履修の手引き p145 PDF ■ インターンシップによる学生派遣に関する覚え書き 【資料 39】 PDF ■ 放課後学習会ボランティア募集依頼文 (大阪市立大宮中学校) 【資料 35】 PDF ■ 学生スクールサポーター活動状況報告書 (神戸市教育委員会事務局) 【資料 36】 PDF
<p>7-3 学外の多様な人材の活用状況</p>	<p>・卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。</p>	<p>A</p>	<p>「介護等の体験」では、学生の受け入れ先である八尾隣保館との緊密な協力体制を築き円滑な実習の履修が可能となっている。また、介護等の体験に向けた事前事後学習である「福祉教育概論」では、高齢者福祉の専門家(22年度は竜華福祉会・奥田勝之氏)による講演や、旭区社会福祉協議会による車いす体験などを含む「福祉教育」を織り込んで実施している。</p> <p>教職実践演習(中・高)では、枚方寝屋川消防組合の協力を得て救命講習を取り入れことができ、事故対応への備えの意識醸成を図っている。</p> <p>教育実習事前指導では、実際に教壇に立つ卒業生に教育実習での体験談の披露を依頼している。</p> <p>さらに、卒業生との密接なネットワーク構築を目指し、教職課程同窓会の本格的な始動を鋭意準備中であり、2023年度に発会の予定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福祉教育概論および中学校教育実習、高等学校教育実習、教育実習事前事後指導 【資料 05】 教職課程／シラバス／大阪工業大学 HP https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/ ■ 令和4年度介護等の体験受け入れ通知 (大阪府教育庁) 【資料 37】 PDF ■ 救命講習申込書 【資料 40】 PDF ■ 教職課程同窓会の案内 【資料 41】 PDF

【関連する参照法令等】